

平成29年度大阪府立難波支援学校
第一回学校協議会 記録

1. 日時 平成29年7月6日(木) 10:30～11:55

2. 場所 大阪府立難波支援学校 校長室

3. 次第

(1) 開会

(2) 委員紹介

(3) 教育課程等について

「平成29年度 学校要覧」による説明

(4) 学校経営計画について

「平成29年度 学校経営計画及び学校評価」による説明

(5) その他

(6) 閉会(校長挨拶、会長挨拶)

＊午前9時30分から午前10時20分まで授業見学を実施

4. 協議内容(各委員からの主な意見)

➤ **教育課程、授業内容等について**

- ・これまでに職業教育・キャリア教育の充実に取り組んでいる学校が多いが、すべての子どもたちが社会自立にむけて輝くような取組みをお願いしたい。
- ・掲示物が子どもたちの実態にあっているのか疑問である。すべての子どもたちの力を伸ばすような支援が十分であるのか、掲示物も含め検討してほしい。
- ・高等部のコース制について、それぞれのコースの特徴をわかりやすくすると、違いが明確になるので、選択しやすくなると思われる。
- ・コース制では、コース名の表現により人それぞれ受け止め方が違うので、職業コースの名称を「職人コース」とするなど、工夫が必要ではないか。
卒業後の進路はそれぞれ違う。学校教育におけるコースの選択が進路選択につながる一つの経験になる。
- ・教養の一つとして、電話の掛け方や受け方、身だしなみの仕方などを学校の授業の中で実施することで、生徒たちが社会にでるということをより強く意識できるように感じた。週に1時間でも、ドアの開け閉め、お茶の出し方などに力をいれてもらいたい。
- ・学校での移動も含め、体力が必要。放課後デイで過ごすことが多いが、近隣のスポーツ施設の利用などが減っているのではないか。学校での体力づくりが今後大切。

- ・授業等を見学して思うことは、在籍する子どもたちの様子が変わってきている。社会自立をめざす生活に直結するためにも、小学部6年、中学部と高等部の6年のスパンで、考えてほしい。新学習指導要領のタイミングにあわせ、前後期制の実施も含め、キャリアプランニングマトリックスの検討を、小6年、中及び高6年のまとまりの中でしていくべきである。
- ・中学部あたりから、コース制の前身のような取組みを入れることが必要ではないか。学校のなかで、自分で選択する経験を入れてほしい。学部間で、カリキュラムを重複させるなどの工夫をしながら、小学部と中学部、中学部と高等部の連携が図れるようなカリキュラムの検討をしてほしい。

➤ 進路指導等について

- ・卒業生の進路状況（中学部・高等部）において、就労移行支援が数的に増えているような印象があるので、選択科目として「どのようなものを選んでいるのか」について把握しておく必要がある。
- ・福祉事業所では、職員と利用者さんとの比率が、**6.5 : 1** であり、学校との支援体制の違いを実感した。生徒さんが不安にならないのかも痛感した。
- ・実習において、学校での気持ちが抜けないので、作業員さんをすぐ呼んでしまうなどのことがある。高3になると、授業で実際の社会で咄嗟の時に必要となる行動の仕方などを少しでも教えてもらえると、社会とのギャップが少なくなるように感じている。

➤ その他

- ・PTAの組織のあり方について、新聞でも報道されているが、あり方が変わっていくように感じており、今後どのように組み立てていくのかを考えていく必要がある。
- ・遊具が少ないと感じる。子どもたちが、体を動かせるような遊具があればよいのではないか。
- ・遊具については、定期的な維持管理や、安全管理上の問題もあり、新たな設置は難しいだろう。体力の向上を図るための現有施設の活用が望まれる。
- ・通学路の標識の導入を検討していることについて、いたずらや向きを変えるなどの可能性もあり、定期的なメンテナンスが必要であろう。実施に際して、表示に頼りすぎないような教育も必要である。
- ・PTA活動の中で、自主登校の子どもたちへの支援として、子どもたちの胸のあたりにリボンのようなマークをつけるような取組みも考えたが、周囲の人からの誤った理解を助長する可能性もあるとの意見もあった。今後は、定期的に確認しながら、より良い方法がないか検討し、実施していくことを期待する。